

5. 事務支援体制の構築

本機構が、全学の「共通教育組織」の一つとして設置されることに向け、また、活動の活発化を受けて、事務支援体制の充実も必須のことになりました。

従来から、本学の事務支援体制は、事務局長のもとに配置される事務職員や有期雇用職員等で構成される各部・各課室があることに加えて、時限の外部資金で活動を行うプロジェクト型の教育・研究組織を支援するため事務体制が状況に応じて配置されています。本機構は、2022年12月1日に発足しましたが、その前身は「データサイエンス・AI全学教育拠点」という教育活動の集合体が担っていました。その全体調整のために、教育本部内に「データサイエンス・AI全学教育実施委員会」が設置され、事務支援体制としては、文部科学省や学内の調整対応業務を学務部教務課教育企画グループが担当し、具体的な実務事務業務を、この教育拠点に所属の教員が多く関わっていたことから、学院等事務部情報理工学院業務推進課が担当していました。情報理工学院業務推進課の主な業務は、データサイエンス・AI教育拠点での教育に携わる非常勤の教員の雇用手続きや授業補助を行うTAの雇用や勤務管理、この教育拠点の定例打合せの調整や予算管理のほか、教育本部の事務担当との連絡や教務事務関係の連絡調整でした。当初は、独自の教員室も事務室もなく、事務職員が情報理工学院業務推進課の事務室(西8号館E棟2階およびW棟6階607号室)で執務するほか、教員も事務支援員と同室で執務していました。

文部科学省が進める数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進において、本学は拠点校に採択され、2022年度から5年間の運営費交付金の支援を受けることとなりました。さらに、2022年8月には、本学の「データサイエンス・AI全学教育プログラム(リテラシーレベル)」が文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定を受けました。このため、事務支援の強化がますます求められることとなり、2022年4月から学院等事務部長が事務室長の機能も行うこととなり、継続雇用職員1名も配置されました。事務室や教員室の整備も急がれ、大岡山キャンパス西8号館W棟6階601号室および602号室を新たに確保し、教員や事務職員の机を配備するとともに、遠隔授業のためのブースや大画面での遠隔会議設備を設置しました。

また、2022年8月以降、新たな有期雇用職員(特任専門員や事務支援員)の雇用を行い、順次事務体制を構築してきました。

共通教育組織の一つとしての「データサイエンス・AI全学教育機構」は、教育本部会議での議論や役員会・教育研究評議会の議を経て、2022年12月1日に発足し、事務担当は、「データサイエンス・AI全学教育機構事務室」と称することになりました。

2023年4月1日付けで、事務局学務部に「全学教育推進室」が設置され、全学教育推進室全学教育推進グループが、本機構の事務局側の担当として所掌が明示されることとなりました。全学教育であることから、事務局学務部との緊密な連携と役割分担は重要であり、今後も連携して活動を行っていきます。

